

---

---

新図書館(本館)整備に向けた  
構想検討【報告書】

---

---

2025(令和7)年3月

岸和田市 教育委員会 生涯学習部 図書館

# 目次

I はじめに .....	1
1 近年の図書館のあり方 .....	2
2 近年の図書館のあり方を踏まえた図書館整備・運営の検討.....	9
II 立地可能場所の検討 .....	15
1 立地可能場所の検討 .....	15
2 事業手法及び活用可能な財源の検討.....	22
3 立地可能場所の評価.....	29
III 市民意見の把握 .....	36
1 利用者アンケート調査.....	36
2 市民意識調査 .....	37
3 館外イベントでの市民の声 .....	38
IV 今後に向けて .....	40
1 検討スケジュール.....	40
2 今後の検討課題 .....	41

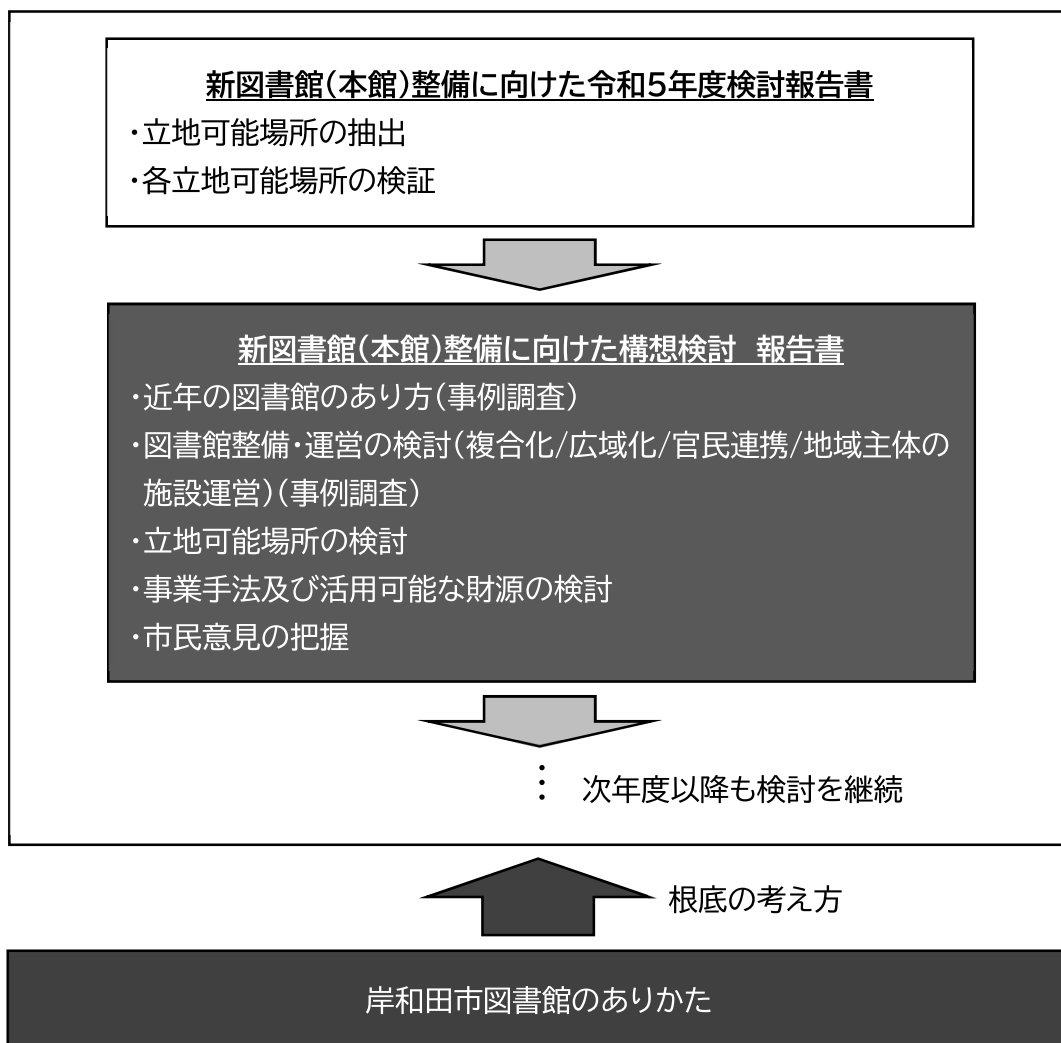
# I はじめに

本業務では、「新図書館(本館)整備に向けた令和5年度検討報告書」をもとに、施設計画及び候補地選定に向けた基礎資料等の取りまとめを行いました。また、立地可能場所について、他の公共・民間施設との複合化の可能性や効果、図書館の立地を契機とした、まちの賑わいづくりにつなぐための活用可能な財源や事業手法等の検証を行うとともに、これまで図書館が収集した利用者ニーズや幅広い層の市民からの意見、市民との学びと実践のプロセスの整理、分析を行っています。

本報告書は、本年度(令和6年度)の調査結果等をまとめたものであり、令和7年度以降、備えるべき機能や必要な施設等、新図書館(本館)整備に向けた取組を進めていきます。

また、調査検討にあたっては、令和5年2月に策定した「岸和田市図書館のありかた(以下「ありかた」という。))の考え方にに基づき実施しました。

以下にそのフロー及び本報告書の概要を示します。



# 1 近年の図書館のあり方

近年、図書館においては、従来の「本を読む場所」、「本を貸し出す場所」という枠を超えて、地域づくりや社会的役割を担う施設へとあり方が進化しており、今後、図書館が提供するサービスはますます多様化し、地域住民にとってより身近で利用しやすい場となることが求められています。

以下に、図書館のあり方に関する近年の動向を整理します。

## ① デジタル化・ICT 活用

現代の図書館では、デジタル技術や ICT(情報通信技術)の活用が進んでいます。従来の紙の書籍に加え、電子書籍、デジタルメディア、オンラインデータベースなど、インターネットを活用した情報提供が増えています。特に、図書館のデジタルサービスは、利用者がどこからでもアクセスできる環境を提供し、情報の検索や学習がオンラインで簡単に行えるようになっていきます。また、AI(人工知能)やビッグデータの活用により、利用者のニーズに応じたサービス提供や蔵書管理が効率化されています。

### — <デジタル化・ICT 活用の事例(関西圏)> —

#### ◎奈良市立図書館(奈良市)

奈良市立図書館では、ICT 技術を活用して、館内の蔵書検索をオンラインで提供しています。また、利用者がリモートで本の予約や貸し出し手続きができるように、Web サービスを強化しています。加えて、オンラインで閲覧できる資料や電子書籍も提供しており、利用者の利便性を向上させています。

#### ◎枚方市立図書館(枚方市)

枚方市立図書館では、スマートフォンを活用した蔵書検索や予約システムを提供しています。また、オンラインでの講座やイベント配信を行い、コロナ禍でも地域住民の学びの場を確保しています。電子書籍やデジタルコンテンツも充実しており、より多くの人々に情報アクセスを提供しています。

#### ◎堺市立図書館(堺市)

堺市立図書館では、図書館内に QR コードを活用した案内や、オンラインでの資料検索・貸し出し手続きが可能なシステムを導入しています。利用者は、スマートフォンや PC を使って、簡単に図書館のサービスを利用できるようになっています。

## ② 多文化・多言語対応

グローバル化が進む中、図書館は多文化・多言語に対応したサービスを提供するようになってきました。特に移住者や外国人住民が増える都市では、図書館が異なる言語の書籍や資料、さらには翻訳サービスや多文化イベントを提供する場となっています。このような取組は、地域社会の多様性を尊重し、すべての住民がアクセスできる情報源を提供することを目的としています。例えば、外国語の書籍の充実や、異文化理解を深めるための講座の開催などです。

### <多文化・多言語対応の事例(関西圏)>

#### ◎西宮市立図書館(西宮市)

西宮市立図書館では、多文化共生を重視し、外国語書籍の収集に力を入れています。特に、英語、中国語、韓国語など、地域に住む外国人住民向けに多言語資料を提供しています。また、図書館内には多言語対応スタッフが常駐し、外国人住民向けの支援サービスも行っています。

#### ◎和歌山市立図書館(和歌山市)

和歌山市立図書館では、外国語に対応した書籍のコーナーを設置しており、観光客や外国人住民向けに多言語サービスを提供しています。また、外国語でのイベントや講座を開催し、地域内の多文化交流を促進しています。

#### ◎高槻市立図書館(高槻市)

高槻市立図書館では、外国人住民を対象に日本語学習支援を行っているほか、英語や中国語の書籍を充実させ、多文化共生を進めています。特に、地域住民の多様性を尊重し、多言語でのサービスを提供するための取組が評価されています。

### ③ 環境・持続可能性への配慮

最近では、図書館の設計や運営において環境に配慮した取組も増えています。エコデザインや省エネルギー技術を導入することで、持続可能な施設作りが進んでいます。例えば、再生可能エネルギーの利用、エネルギー効率の良い建築資材の使用、雨水の再利用などが挙げられます。また、図書館内で環境教育やエコ活動に関するプログラムが行われることもあり、地域住民に持続可能な生活様式を促進する役割も果たしています。

#### < 環境・持続可能性への配慮の事例(関西圏) >

##### ◎京田辺市立図書館(京田辺市)

京田辺市立図書館は、環境に配慮した建築設計が特徴です。館内では、自然光を活用した照明や、省エネルギー技術を導入しており、環境負荷の低減に努めています。また、図書館周辺には緑地が整備され、地域住民が自然と触れ合える空間となっています。

##### ◎伊丹市立図書館(伊丹市)

伊丹市立図書館では、エコロジーを意識した施設設計がなされており、省エネルギーやリサイクル活動に積極的に取り組んでいます。また、館内で環境に配慮したイベントやワークショップを開催し、地域住民に環境意識を高める活動を行っています。

##### ◎枚方市立図書館(枚方市)

枚方市立図書館は、エネルギー効率を意識した建物設計がされており、太陽光発電や雨水利用など、持続可能な取組を行っています。また、図書館内で「エコライフ」をテーマにした講座を開くなど、地域住民に環境意識を広める活動を推進しています。

#### ④ ウェルビーイング(福祉・健康)への寄与

図書館は、地域住民の心身の健康や福祉に貢献する場としても注目されています。特に、精神的な健康やウェルビーイング(幸福感)を支援するためのサービスが増加しています。例えば、図書館内でリラックスできるスペースを提供したり、メンタルヘルスに関するワークショップやイベントを開催したりする取組です。また、図書館が認知症予防や高齢者向けのプログラムを提供するなど、地域の福祉に貢献する場としての役割が強化されています。

#### <ウェルビーイング(福祉・健康)への寄与の事例(関西圏)>

##### ◎八尾市立図書館(八尾市)

八尾市立図書館では、高齢者向けの「読み聞かせ」や「健康に関する書籍の展示」を行っています。また、図書館内で認知症予防や心の健康をテーマにした講座を開催し、地域住民のウェルビーイングをサポートしています。

##### ◎豊中市立図書館(豊中市)

豊中市立図書館は、健康や福祉に関連する本を集めたコーナーを設置し、地域住民が健康管理について学べる環境を提供しています。また、高齢者や障がい者向けのリハビリテーション支援を図書館で行っており、地域のウェルビーイングに寄与しています。

##### ◎吹田市立図書館(吹田市)

吹田市立図書館では、メンタルヘルスや福祉に関する資料の充実、健康維持を目的としたイベントを開催しています。特に、「心のケア」、「健康づくり」に関連する講座やワークショップを定期的実施しており、地域住民にとって有益なリソースを提供しています。

## ⑤ アート・クリエイティブ活動の支援

図書館は、アートやクリエイティブな活動を支援する施設としても進化しています。図書館内にギャラリーを設置し、地域のアーティストの作品を展示したり、音楽や映像制作のワークショップを開催したりする取組が広がっています。また、クリエイティブな学習を支援するために、デジタルアプリケーション(3Dプリンターやレーザーカッターなど)を導入する図書館も増えています。これにより、利用者が自分自身のアイデアを具現化する場として図書館が機能するようになっていきます。

### <アート・クリエイティブ活動の支援の事例(関西圏)>

#### ◎高槻市立図書館(高槻市)

高槻市立図書館では、地域アーティストとの協力により、絵画や写真の展示を行っています。また、アートや手作りクラフトをテーマにしたワークショップを開催しており、地域住民が創造的な活動を楽しむためのスペースを提供しています。

#### ◎枚方市立図書館(枚方市)

枚方市立図書館では、地域のアート活動を支援するため、図書館内で絵画展や手作りクラフトの展示を行っています。また、アートやデザインに関するワークショップや講座を定期的で開催し、地域住民がアートに触れ、創造的な活動を行える機会を提供しています。

#### ◎京都府亀岡市立図書館(亀岡市)

亀岡市立図書館では、地域の文化やアート活動を支援するため、地元のアーティストの展示や手工芸ワークショップを開催しています。また、図書館内には、創作活動を支援するためのスペースも提供されており、地域住民が自由に利用できる場として活用されています。



## ⑥ セーフティネット・情報アクセス支援

近年、情報格差の解消やデジタルデバイド(情報格差)への対策として、図書館が重要な役割を果たすようになってきました。特に、高齢者や低所得者層、デジタル技術に不安がある人々に対して、情報へのアクセス支援が行われています。例えば、デジタル機器の使い方講座やインターネットアクセスの提供、オンラインでの行政手続き支援など、図書館が「情報のハブ」として地域住民に必要なサービスを提供しています。これにより、情報にアクセスできないことによる社会的排除を防ぐ役割を担っています。

### <セーフティネット・情報アクセス支援の事例(関西圏)>

#### ◎大阪市立中央図書館(大阪市)

大阪市立中央図書館では、生活困窮者や高齢者を対象に、行政手続きのサポートを行っています。また、図書館内で情報リテラシー講座を開催し、地域住民がインターネットやPCを活用して必要な情報を得る方法を学ぶ機会を提供しています。

#### ◎和歌山市立図書館(和歌山市)

和歌山市立図書館では、地域住民に向けて、行政手続きや福祉に関する情報提供を行っています。特に、生活支援や医療、福祉サービスの案内を積極的に行い、地域住民が必要なサポートを簡単に得られるようにしています。

#### ◎守口市立図書館(守口市)

守口市立図書館では、地域住民が必要な情報にアクセスできるように、図書館内で行政書類の取扱いや、生活に役立つ情報を提供しています。また、高齢者や障がい者向けに、インターネットやパソコンの使い方講座を実施し、デジタルデバイドの解消に貢献しています。

近年の動向や関西圏での事例のように、図書館は地域社会の中心的な施設として位置付けられ、単に情報提供の場としてだけでなく、住民同士が交流し、共に学び合う場としての役割が強化され、地域づくりに貢献する施設としての重要性が高まっています。例えば、地域イベントの開催、講座やワークショップの実施、子どもや高齢者向けの支援など、地域のニーズに応じた活動が行われています。

また、図書館は学びの場としての機能がますます強化されており、学校や大学の補完的な役割を果たすだけでなく、地域住民の生涯学習を支援するために、幅広い講座やプログラムが提供されています。例えば、キャリアアップのためのセミナーや資格取得支援、プログラミングやデザインなどの技術的な学習支援など、利用者が自己実現を図るための学びの場として利用されることが増えています。

このように、図書館は地域社会の多様なニーズに応える場として進化しており、今後も、社会的役割がますます重要視され、地域住民の生活をより豊かにする施設としての役割が強化されていくと考えられます。

## 2 近年の図書館のあり方を踏まえた図書館整備・運営の検討

前項の近年の図書館のあり方に対応するため、全国では様々な施設整備及び運営の方法が実践されています。そのため、本項においては、近年の図書館のあり方を踏まえ、それらに対応するために全国で取り組まれている方法として、「施設の複合化」、「広域化(広域連携)」、「官民連携(整備及び運営)」、「地域主体の施設運営」、「岸和田市公共施設等総合管理計画」の内容について、全国での事例とあわせて整理します。

### (1)施設の複合化

現代の図書館は、複数の機能を持つ「複合施設」としての方向性が強まっています。読書や貸出中心の機能から、地域の情報拠点、生涯学習の拠点、交流と創造の場の拠点としての役割が期待され、カフェやギャラリー、子育て支援施設、学習支援施設など、多機能を備えることが増えています。これにより、地域住民が図書館を訪れる目的が多様化し、単一の目的にとどまらず、さまざまなサービスを楽しむことができる場所として活用されています。

また、国の政策で、自治体施設・インフラの老朽化対策・防災対策の推進として、総務省より、各地方公共団体において、総合管理計画・個別施設計画に基づいて推進する公共施設等の適正管理の取組に対する地方財政措置である、公共施設の集約化・複合化事業や転用事業、長寿命化事業等を対象とした「公共施設等適正管理推進事業債」が平成 29 年度に創設されたことから、全国的に、施設複合化の動きが加速しています。

**① 集約化・複合化事業**

**対象事業**


○ 個別施設計画に位置付けられた以下の集約化事業又は複合化事業(公用施設、公営住宅、公営企業施設は対象外)  
 建築物(公民館等) : 延床面積の減少を伴うもの  
 非建築物(グラウンド等) : 施設の数及び維持管理経費が減少すると認められるもの

**留意事項**

事業期間 : 令和4年度～令和8年度


- ・ 統合前の施設の廃止が、集約化又は複合化による統合後の施設の供用開始から5年以内に行われることが必要。
- ・ 国庫補助事業として実施される事業についても対象事業に含まれる。
- ・ 複数の地方公共団体が連携して実施する集約化事業や複合化事業についても、当該事業が連携協約や協定等に基づいて行われる場合には、対象となる。
- ・ 公共施設と対象外施設(庁舎等)を複合化する事業については、対象施設に係る部分に限り対象となる。
- ・ 集約化又は複合化により整備する施設に、整備前の施設にない機能を有した施設を新たに追加して併設する場合、当該追加部分の施設については対象外となる。  
(共用部分がある場合は面積按分等)

**老朽化**



青少年センター

**老朽化**




生涯学習センター

+

公適債の対象

**複合化**



青少年センター  
生涯学習センター

→

**移転・複合化**  
(延床面積減少)

青少年センター及び生涯学習センターの機能を集約

**充当率・元利償還金に対する交付税措置**

集約化・複合化事業費

公共施設等適正管理推進事業債 (充当率90%)

元利償還金の50%を地方交付税措置

一般財源

10

資料:総務省

施設の複合化によって、「多目的化による、地域の中心的なコミュニティ施設の形成」や「設備の多機能化による、利用者層の拡大や収益化(例えばカフェやイベントスペースの運営)などの経済的効果」、「文化、教育、情報発信」など複数の機能が統合されることで、地域活性化への寄与」などが見受けられる一方で、「利用者の集中と静粛性の確保」や「管理運営の複雑化」、「予算やリソースの分散」、「運営の負担増」などの課題も考えられます。

前述の内容を踏まえて、以下に、施設形態の単独、複合におけるそれぞれのメリット、デメリット及び、それらの事例を整理します。

■単独施設のメリット、デメリット

メリット	デメリット
<p><b>◎利用者の集中と静粛性</b> 静かで落ち着いた読書・学習環境を提供できる。</p> <p>→【事例】福井県立図書館 教育や研究目的の利用が多く、利用者の集中を促す静かな環境が評価されている。</p> <p><b>◎設計・運営が専門的</b> 図書館機能に特化した設計や運営が可能。</p> <p>→【事例】金沢海みらい図書館 特徴的な建築デザインと館内設備により、「本を楽しむ場」として利用者から高い評価を得ている。</p> <p><b>◎利用者ニーズへの柔軟な対応</b> 図書館独自のイベントや展示に集中できる。</p> <p>→【事例】北海道旭川市中央図書館 市民の要望に応えた特別展示や文化イベントを頻繁に実施している。</p>	<p><b>■利用者層が限定的</b> 図書館に興味がない層の利用が少なく、新規利用者を取り込む機会が限定される。</p> <p><b>■運営コストが割高</b> 他施設と共用する場合と比べ、運営や維持費が高くなる。</p> <p><b>■集客力に限界</b> 他の施設との相乗効果が得られないため、集客が一部の層に偏る。</p>

■複合施設のメリット、デメリット

メリット	デメリット
<p><b>◎多様な利用者層を獲得</b> 複数機能の相乗効果で幅広い世代や目的の利用者が訪れる。</p> <p>→【事例】高知県立牧野植物園と併設された高知県立図書館 植物園訪問者が図書館にも足を運ぶ形で利用者が増加している。</p> <p><b>◎運営コストの分担</b> 他施設と共用することで、運営費や維持費を削減できる。</p> <p>→【事例】東京都豊洲文化センターと江東区立図書館 イベントホールや地域交流スペースとの併設で効率的な運営が可能になっている。</p> <p><b>◎多機能なコミュニティ拠点</b> 学び・交流・イベント開催が一体となった空間を提供できる。</p> <p>→【事例】兵庫県三田市の複合施設「まちのひろば」 図書館、カフェ、子育て支援施設が一体化し、多世代が集まる場所となっている。</p>	<p><b>■静粛性の確保が難しい</b> 他施設の利用者の動きやイベントが騒音源となり得る。</p> <p>→【事例】神奈川県立川崎図書館(ソリッドスクエア内) ビジネスエリア併設で、静粛性を求める利用者から課題視されている。</p> <p><b>■図書館機能の希薄化</b> 図書館以外の機能が主役になると、図書館本来の目的が薄れる可能性がある。</p> <p>→【事例】大阪府茨木市「茨木市立図書館と商業施設」 商業施設に併設されているが、利用者の関心が買い物中心になり、図書館の活用率が伸び悩むことも。</p> <p><b>■運営上の調整が必要</b> 施設間で利用時間や運営方針の調整が必要。</p> <p>→【事例】静岡県掛川市「たまり～な」 図書館と多目的施設の利用時間が異なるため、利用者から不満の声が上がることも。</p>

⇒単独図書館が適している場合

- ・読書・学習目的に特化した静かな環境を重視する地域。
- ・専門的な資料や学術的な活動を中心とする利用が見込まれる地域。

⇒複合化図書館が適している場合

- ・利便性や集客力を高め、幅広い層の利用を促したい場合。
- ・地域全体のコミュニティ拠点としての役割を担う施設が求められる場合。

そのため、地域特性や想定ターゲット層、利用者層のニーズを考慮しつつ、複合化の適正を慎重に検討することが重要と考えられます。

## (2)広域化(広域連携)

図書館の役割が地域にとどまらず、広域的な連携へと拡大しています。特に都市圏や広域自治体では、複数の図書館が連携し、相互に資源やサービスを共有することが一般的になっています。例えば、広域連携により、図書館同士で蔵書の相互貸借やイベントの共同開催が行われ、地域住民が近隣の図書館で利用できるサービスを増やしています。こうした広域化は、地域ごとの図書館運営の効率化を図り、さらに多くの住民がさまざまな情報資源にアクセスできるようにするための手段となっています。

### <図書館広域化の事例>

#### ◎泉南地域「図書館共同利用」

泉南地域5市3町(岸和田市・貝塚市・泉佐野市・泉南市・阪南市・熊取町・田尻町・岬町)では、図書館の共同利用として、共同で蔵書のシェアリングや、広域で利用できる図書館サービスの提供を行っています。

#### ◎神奈川県「かながわ電子図書館」

神奈川県内の複数の市町村の図書館が連携し、電子書籍の貸し出しサービスを提供する「かながわ電子図書館」を立ち上げています。これにより、住民はどの市町村に住んでいても、電子書籍を借りることができ、利便性が向上しています。

#### ◎福岡県「県立図書館と市町村図書館との連携」

福岡県内の各市町村と県立図書館が連携し、相互に貸出・返却サービスを提供。県内の図書館であれば、どこでも書籍を借りることができ、利用者にとって利便性が向上しています。

図書館の広域化によって、「地域間でのリソースやサービスの共有による、効率的な運営」、「小規模な図書館では提供できないサービスの実現」、「複数の自治体にまたがるサービスによる、利便性の向上」などの効果が期待できる一方、「連携による運営や情報共有の調整の煩雑さ」、「意思決定のスピードや統一感の欠如」などの課題も考えられます。

### (3)官民連携(整備及び運営)

図書館の整備や運営において、公共(官)と民間(民)の連携が進んでいます。公共が図書館の運営に民間の力を借りることで、より効率的で柔軟な運営が可能となり、サービスの質の向上が図られています。例えば、カフェやショップの設置、建物の管理運営を民間企業が担当するケースなどがあり、民間企業のノウハウを活かして、利用者にとって快適で魅力的な図書館環境が提供されています。これにより、図書館の施設維持費用の削減や、民間企業とのコラボレーションによる新たなサービスの創出が可能となっています。

#### <図書館の官民連携(整備及び運営)の事例>

##### ◎福岡市立中央図書館(福岡市)

福岡市立中央図書館は民間企業との協力により、施設の設計・運営の一部を民間に委託する官民連携のモデルケースです。特にカフェやイベントスペースの運営に民間企業が関わり、施設全体の利便性と収益化が進められています。

##### ◎新宿区立新宿図書館(新宿区)

新宿区立新宿図書館では、図書館の運営に民間企業と提携し、施設の管理や新しいサービスの開発を支援しています。特にデジタルメディアの導入や、オンラインサービスの充実に民間企業が寄与しています。

##### ◎東広島市図書館(東広島市)

東広島市では、民間企業と連携して図書館施設の整備を進め、書籍の購入、イベント運営などで民間のノウハウを活用しています。

図書館整備や運営の官民連携によって、「民間のノウハウやリソース活用による、施設のサービス向上や効率化」、「民間資本の導入による、初期投資や運営コストの負担軽減」などの効果が期待できる一方、「民間企業が利益を優先するあまり、公共性の高いサービスが軽視される可能性」、「民間の関与が過剰になると、住民の意見や地域性が反映されにくくなる」、「公共サービスとしての公平性が損なわれる可能性」などの課題も考えられます。

#### (4)地域主体の施設運営

地域住民が主体となって図書館の運営に関わるケースも増えてきています。地域住民や地域団体が図書館の活動に参加し、運営やイベントの企画を行うことで、図書館がより地域に密着した施設として機能します。地域住民のニーズや特性に応じた図書館の運営が可能となり、地域のアイデンティティを反映した空間が作られることが期待されます。地域主導の図書館活動は、地域コミュニティの活性化にも寄与し、図書館を地域にとって欠かせない場所として育てていく役割を果たしています。

##### <図書館の地域主体の施設運営の事例>

###### ◎滋賀県彦根市「彦根市立図書館」

彦根市立図書館は、地域住民やボランティア団体と連携して図書館運営に携わり、地元文化や歴史を反映させたプログラムやイベントを実施しています。市民参加型の運営モデルが特徴です。

###### ◎静岡県「静岡市立図書館」

静岡市立図書館では、市民の声を反映させた施設運営を行い、地元団体との協力を通じて地域に特化したイベントやワークショップを行っています。地域住民が運営に関与する形で、施設の利用価値が高められています。

###### ◎大阪府東大阪市「東大阪市立図書館」

東大阪市では、地域住民や地域団体が中心となって図書館の企画や運営に関するシステムを導入しています。地域ニーズを反映した図書館サービスの提供が進んでいます。

地域主体の施設運営によって、「地域住民のニーズを直接反映する、地域密着型運営」や「地元文化や特性を活かしたプログラム提供による、地域住民の参加意欲の向上」、「地域住民が主体となることで、図書館に対する愛着や支持が深まる」などの効果が期待できる一方、「地域住民の活動に頼る部分が大きくなると、運営が不安定になる可能性」、「全国的な標準化や他地域との連携が難しくなる」、「地域住民が十分な経験や知識を持たない場合、運営に問題が生じる」などの課題も考えられます。

#### (5)「岸和田市公共施設等総合管理計画」との整合性について

本市では、公共施設の適切な管理に長期的に取り組んでいます。基本方針として、計画的保全による長寿命化の推進、施設保有量の適正化、地域の特性やまちづくりと連動したマネジメントの推進、効果的・効率的な維持管理・運営の実現、ユニバーサルデザイン化の推進、脱炭素化に係る取組の推進等を定めています。

その中で図書館の課題として、「本館は、民間活用による管理運営や施設整備を検討する必要がある」「分館は、5つの分館の役割と検証を踏まえ、あり方を検討する必要がある」とされています。こうした公共施設等の基本的な方向性との整合性を図りながら検討を進める必要があります。



## Ⅱ 立地可能場所の検討

### 1 立地可能場所の検討

#### (1)立地可能場所の基本的な考え方

昨年度の「新図書館(本館)整備に向けた令和5年度検討報告書」で抽出された“立地可能場所”を基本とします。

なお、昨年度報告書において、新図書館(本館)の立地場所を決定するにあたっては「あrikata」で示した4つの基本的な考え方を基に、総合的に判断することとしています。

#### ◎公共交通機関などの交通利便性がよく、市内各所からのアクセスが容易であること

図書館分館が配置されていない都市中核地域の中から適切な候補地を選定すること

#### ◎他の公共・民間との複合化や併設が見込めること

複合化や隣接施設での機能代替を考慮し、現在施設の集約・廃止・売却等の再編を検討中もしくは施設誘致を検討中の市有地から適切な候補地を選定すること

#### ◎図書館の整備を契機として、まちの賑わいづくりや、魅力創造につながることを期待できること

「新時代の図書館の役割 ～「読書」の場から「交流」「知識」を創造する場へ～」

#### ◎必要な土地の確保が確実に見込めること

必要な機能をもち、かつ本市の将来人口と類似する人口規模団体の図書館と同程度の規模の施設が整備可能な土地から適切な候補地を選定すること(最大約 3,500 m<sup>2</sup>程度の施設整備が可能な土地)

昨年度における立地可能場所は、「①現在地」、「②福祉総合センター隣接地」、「③南海浪切ホール」、「④まなび中央公園」の4つでしたが、「②福祉総合センター隣接地」においては、現在、市役所新庁舎を建設する計画案が進められています。庁舎との複合化の可能性については、新庁舎との事業スケジュールが合わないこと、また、調整による新庁舎建築着手の延伸や敷地及び周辺交通量の増加の問題、合築による事業費の増加など、新庁舎の早期建設及び事業費抑制の観点から、検討対象から除くこととし、「市役所本庁舎跡地」を新たな立地可能場所として加え、以降の調査、検討を行います。

## (2)市場ニーズ・民間意向把握

各立地候補地における複合化施設の可能性、市場ニーズ、官民連携手法(後述)等について、民間事業者へのヒアリング調査を実施しました。ヒアリング調査対象は、事業スキームの大きな枠組みとして、近年の図書館整備の実績や、岸和田市での公共施設の整備実績などの視点から、「建設」、「不動産」、「設計」の業種より各2社を抽出しました。

### ① 調査目的

各立地候補地のまちづくりや隣接する施設との複合化、相乗効果の創出も含めた施設全体の規模やにぎわい施設の具体的な導入機能、それらに関する市場ニーズの傾向等を把握し、分析するとともに、望ましい事業手法や事業スキーム案の検証など、より詳細な内容について民間事業者の意向を把握します。

### ② 調査方法

事前に調査説明書及びヒアリング調査シートを配布し、対面形式のヒアリング調査を実施しました。

### ③ 調査実施概要

調査期間:令和7年2月18日~令和7年2月26日

調査対象:建設事業者2社

不動産事業者2社

設計事業者2社計6社

### ④ 調査内容

ヒアリングを実施するにあたり、調査用資料を作成しました。

資料作成においては、以下の内容を記載しました。

資料	留意点/ポイント
実施要領	1 実施概要 (1)調査の趣旨・背景 (2)ヒアリング調査について (3)参考資料 2 立地候補地の概要について 3 想定する事業スキーム
調査票	問1. 本事業への関心の程度、図書館整備に関する実績 問2. 各立地候補地の立地評価 問3. 各立地候補地で考えられるプラン・アイデア 問4. 展開を想定する事業に対するマーケット環境(現在の市場の動き) 問5. 各立地候補地で想定される事業手法 問6. その他全般的な意見・課題など

⑤ 調査結果

■民間事業者ヒアリング調査結果まとめ

調査項目/ 調査対象	建設事業者		不動産事業		設計事業者	
	事業者 A	事業者 B	事業者 C	事業者 D	事業者 E	事業者 F
各立地候補地の立地評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 人が集まる、訪れやすい場所が良い。理想は、車でも来られて、駅からも歩ける場所が良い。</li> <li>● 駐車場の広さや、アクセス面(幹線道路沿い)などの観点から、南海浪切ホールが良いのではないかと。</li> <li>● まなび中央公園は駅から離れている。幹線道路沿いでもない。</li> <li>● 現在地で建替える場合は、蔵書を一時保管する場所が必要。スペースの余裕がない印象。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 現在地は、複合化には、敷地面積が狭い。複合化の場合は一定の面積が必要。仮施設の土地、その予算の確保が必要。</li> <li>● 南海浪切ホールは、床荷重構造体もつのか。大規模修繕工事が必要な場合は、一旦閉鎖が必要。指定管理事業者との協議も必要である。</li> <li>● まなび中央公園は、公共交通(鉄道)アクセスが難あり。平日の利用者を考えた場合、スポーツ・公園機能の強化を図る必要がある。春木図書館(分館)との関係も整理が必要。</li> <li>● 市役所本庁舎跡地(予定)は面積、アクセスには問題ないが、スケジュールが不明確。活断層がどのくらい影響があるか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 現在地は、敷地面積が狭いため、複合化が困難。</li> <li>● 南海浪切ホールは、立地的には問題ないが、既設商業施設との兼ね合いがある。</li> <li>● まなび中央公園は、面積が広く色々検討しやすい。複数施設が集約(連携)できるのであれば人も集まってきやすい。鉄道駅からの距離は問題なく、幹線道路沿いでないため、アクセスが市外の人からは分かりにくい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 岸和田市の姿勢が見えないため、現時点では評価しづらい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 南海浪切ホールは、既存施設の構造を改修するとなると手を出しにくい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 南海浪切ホールは、4階に国際会議が開催できる空間や宴会+パントリー等の空間がある。ガラス張りの回廊であり市内が展望できる。それら空間の稼働率次第ではあるが、床面積自体は複合化可能。</li> <li>● 構造上も安全率を見ているため、一般的な書架であれば問題ないと思われる。ピロティスペースにも機能が加えられるが、デザインや機能としてそれでよいかは協議が必要。</li> <li>● 公園と面した図書館は多く、人々に愛されるため、まなび中央公園も可能性としてはあり得る。</li> </ul>
各立地候補地で考えられるプラン・アイデア	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 図書館は設備が特殊であるため、それを既存の施設にどう収めていくかが問題。</li> <li>● ターゲットは、ファミリー世代にすべき。</li> <li>● まなび中央公園は、プール等の整備検討も進んでいるため、それらとの統合も検討が必要。</li> <li>● 南海浪切ホールで、コワーキングスペースや託児・一時保育機能等を複合化させて、人を呼び込むことを考えることが現実的ではないか。隣接する商業施設と併せて、一日過ごせるエリアとしたらどうか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 図書館単体の整備は減ってきている。多用途の複合施設が必要と考える。生涯学習機能、スポーツ機能、子育て機能など、暮らしに根付く機能。</li> <li>● 図書館の持ち歩きなど、施設全体で使いやすい機能の検討が必要。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 市役所本庁舎跡地(予定)では、岸和田城の改修計画があると聞くため、歴史的な勉強をできる機能があれば、跡地活用の有益性がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 同上。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 図書館単体の整備実績が減ってきている(舞鶴市は単独という位置付けであるが、交流スペースを併設している)。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 公園と図書館の複合化で駅から図書館までのアクセス路を含めた地域活性化にも寄与している事例がある。</li> </ul>

調査項目/ 調査対象	建設事業者		不動産事業		設計事業者	
	事業者 A	事業者 B	事業者 C	事業者 D	事業者 E	事業者 F
展開を想定する事業に対するマーケット環境(現在の市場の動き)	<ul style="list-style-type: none"> <li>男女ともに育休がとれる世の中になってきている。平日に子どもと自宅近所で一日過ごす場所が求められてくる。そのほか、コワーキングスペース+αなど、近所で子どもを遊ばせながら、育児もでき、働くこともできる、そのような場が今後は求められるのではないかと。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>建設の動向について、複合施設の潮流。国からの補助金(地方債)があるため、その活用がその動きを後押ししている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>貸館機能と社会教育・福祉センターの複合化が多い。似たような機能の施設が点在しているため、集約化しようとしていると感じる。</li> <li>公園の中に Park-PFI のように施設を整備することが目立ってきている。特に、“屋内型”の遊戯施設が求められる印象。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>泉南/泉北地域のまちづくりとして、子育て支援施策や外国人共生を行っている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>建設工事がそれなりにあるが、文化施設や図書館などは希少な実績となるため、参画したい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>単独ではなく、複合施設の動きがある。</li> </ul>
各立地候補地で想定される事業手法	<ul style="list-style-type: none"> <li>前提条件として、物価高騰、人件費上昇の分を見込んでもらわなければ参画できない。</li> <li>近年は、BTO などが一般的であるが、区分所有など、方法は様々ある。単体施設では稼ぐことができないため、複合施設でなければ参加困難。</li> <li>コンセッション方式であれば、事業成り立つ。国もスマートコンセッション方式を推奨する流れになっている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>物価上昇による影響は、一定対応いただいている場合があるが、設備系が現実とのズレがある。資機材費より労務費が上がっている。</li> <li>南海浪切ホールでは、運営に関わっていききたい。改修工事は中々手を出しにくい。従来方式で、指定管理手法が望ましい。PFI だと建設会社が見つからない可能性あり。</li> <li>まなび中央公園は、パーク PFI と組み合わせることも考えられる。イメージとして、体育館と公園がセット。プールは単独(DBO)など。運営の部分も含めて参加したい。(DBO もしくは BTO)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>運営事業者に限られるため、そこと組むことができれば参画しやすい。</li> <li>余剰地の活用の有無でも想定の実業手法が異なる。</li> <li>従来指定管理ではなく、Park-PFI に近い形態が望ましい。</li> <li>長期間契約の場合は、年度ごとに単価の見直しを条件としなければ参画できない。</li> <li>運営を決めて、設計、施工を決める場合や ECI 方式など、柔軟な対応を行っている事例もある。(図書館業務は直営で、施設管理はアウトソーシングするなど、そのバランス感も重要である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>岸和田市の姿勢が見えないため、現時点では、参画を検討しづらい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>従来方式がありがたい。運営会社が限定されるため、そこと手を組んだ企業体が非常に有利であり、公平性が失われる。</li> <li>建設工事費が高騰し、事業性が良いとは言い切れないため、近年は PPP(DB)/PFI(BT)の不調もある。</li> <li>指定管理と調整しながら、別契約で行う方式もある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>工事資材費が高騰しており、2~3年後の費用が読めないため、PPP/PFI ではなく、従来方式が望ましい。</li> </ul>
その他全般的な意見・課題など	<ul style="list-style-type: none"> <li>今後、デジタル化により、蔵書数は減少していくと考える。分館などの小さい図書館は高齢者のために残しておくことは必要。</li> <li>蔵書数は減少するが、交流スペースが必要な傾向。デジタル化が進行しても、総床面積としては、そんなに変わらない。</li> <li>雑誌などの大衆書物ではなく、学校や社会人が学べる高価な専門書の方が需要としてはあるかもしれない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>図書館(本館)の運営について、現在直営であるため、指定管理への影響が気になる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>今後は、図書館単独で整備されることは少ないと考える。図書館をどの機能(公園、商業、その他)と組み合わせるかが重要である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>図書館のめざす姿を明確にする必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>契約期間中でも工事単価上昇を考慮した対応をしていただきたい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>南海浪切ホールは、建築基準法の旧38条認定を使用しており、現在、その旧法第38条が廃止されているため、今後、複合化で用途変更となった際に、建築許可を受けられるかが課題。</li> <li>特に、図書館は耐火検証が非常に厳しい。</li> </ul>

### (3)隣接施設所管課へのヒアリング

各立地候補地における複合化候補施設について、庁内それぞれの状況や今後のスケジュール等を把握するため、関係課へのヒアリング調査を実施しました。ヒアリング調査対象は、各立地候補地に隣接する施設等を所管する課としました。

#### ① 調査目的

各立地候補地のまちづくりや隣接する施設との複合化、相乗効果の創出も含めた施設全体の規模やにぎわい施設の具体的な導入機能、それらに関する検討状況、今後のスケジュールなど、より詳細な内容について庁内での状況、今後の予定を把握します。

#### ② 調査方法

調査説明書及びヒアリング調査シートを作成し、対面形式のヒアリング調査を実施しました。

#### ③ 調査実施概要

調査期間:令和 7 年 2 月 21 日

調査対象:郷土文化課(自然資料館)、こども園推進課(岸城幼稚園等)、  
水とみどり課(まなび中央公園)、文化国際課(南海浪切ホール、マドカホール)

#### ④ 調査内容

ヒアリングを実施するにあたり、調査用資料を作成しました。

資料作成及びにおいては、以下の内容を記載しました。

資料	留意点/ポイント
実施要領	1 実施概要 (1)調査の趣旨・背景 (2)ヒアリング調査について (3)参考資料 2 立地候補地の概要について
調査票	問1. 担当されている施設の動き、検討状況 問2. 担当されている施設の検討にあたっての課題 問3. 担当されている施設の現在の稼働率や課題 問4. その他全般的な意見・課題など

⑤ 調査結果

■施設所管課ヒアリング調査結果まとめ (※)企画課については、現在、跡地活用方策の検討を担っているため、施設所管課と位置付けている)

	郷土文化課	こども園推進課	水とみどり課	文化国際課	企画課
担当されている施設の動き、検討状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>● きしわだ自然資料館について、公共施設等総合計画では、「運営の合理化や複合化を含め、今後のあり方を検討します。」となっているが、築30年程度であり、細々と修繕を実施してきたため、施設そのものに大きな不具合は生じていない。複合化する施設候補があれば可能性はある。</li> <li>● 運営については、指定管理ではなく、他の博物館の状況を注視しながら、より良い運営方法を模索していく。</li> <li>● まなび中央公園と複合する場合は、スペースが広いので、大型バスが乗り入れられるなどの利点はある。公園での観察会などもでき、親和的な部分はあると考える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 令和7年2月時点で 32 施設(再編前は 34 施設)の幼稚園、保育所を再編する計画である(※中期計画までは公表済)。</li> <li>● 現計画では、岸城幼稚園・浜幼稚園・浜保育所・城内保育所の4つの施設を1つの市立認定こども園に再編する計画であり、岸城幼稚園地と隣接する図書館(本館)敷地の活用が最適であると考えている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 屋外プール跡地については、具体的な利用予定はないが、議会の中で子どもをターゲットとした施設整備と説明している。</li> <li>● 今後のスケジュールは、屋内プールが令和 10 年度中の供用開始を目指し、その後、現屋外プールを用途廃止する。</li> <li>● 屋外プール跡地は、まなび中央公園で一等地になるため、民間事業者の提案を促していきたい。図書館単体ではなく、複合化により、親和性が高い機能を。</li> <li>● まなび中央公園についてサウンディング調査を実施している。民間活力は避けて通れない。Park-PFI もしくは体育館含めると PFI になる可能性もある。</li> <li>● 現在、公園は指定管理制度を用いて管理運営している。令和8年度から次回委託(5年間)。令和 13 年度を目指して、諸々動いていきたい。RO方式+PFI方式なども考えられる。まなび中央公園と総合体育館も含めた検討が必要。</li> <li>● 屋内プールは事業者公募に向けた事前協議、基本計画の策定作業中。DBO方式を令和8年度中に実施していきたい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 南海浪切ホールに限らず、岸和田市新行財政改革プランに示された文化施設の統廃合を含めた再編を検討する必要がある。そのため、あり方を検討するための基礎資料づくりを次年度に着手する予定。</li> <li>● 南海浪切ホールは、まだ建設から22年しかたっており、施設的にはまだ良好な状態である。文化国際課としては、マドカホールの複合化は検討する余地がある。マドカホールは大規模改修の時期が近付いており、その際に、図書館を複合化することは可能。施設内の機能としては、展示場機能を再考するとともに、リハ室(1)、ホール及び楽屋の施設は、複合化しても必要だと思うが、それ以外は、図書館として利用することは可能ではないか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 新庁舎が令和 13 年度完成予定のため、その時、跡地活用にすぐに取り掛かれるよう検討を始めようとしている段階である。</li> <li>● 現在、各課が所管する現庁舎エリアに係る法令での規制等を突合し、このエリアでできることとできないことの整理を行っているところである。</li> <li>● また、跡地活用について希望のある部課にはその内容を提示してもらい、それらの内容も含めて今後、検討を進めていきたいと考えているところであり、具体的な活用内容やスケジュールについては、全くの未定である。</li> </ul>
担当されている施設の検討にあたっての課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 標本や展示物の保管をするため、建物としてやや特殊(温度や湿度管理)。断熱などの観点から地下収蔵もあるが、その場合は湿度がトレードオフとなる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 岸城幼稚園の敷地のみで現計画を遂行するならば、4階建て以上の園舎となり現実的ではないことと駐車場スペースの確保が課題となる。</li> <li>● 浜幼稚園地、浜保育所地は津波浸水エリアであるため、適地ではないと考えている。城内保育所地での新園舎の建設は接道要件、駐車場スペースの確保等、様々な面から建設が困難と考えている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 複合化の場合は、カフェや駐車場があれば良い。車や自転車が多くの(バスは少ない)、日常使いの分は現状問題ないが、施設機能が拡充される場合は、パンクする。マドカホールとの駐車場連携も視野に入れる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 南海浪切ホールは、他者の土地を通らないと車両が入れない構造になっている。</li> <li>● 町会や市民協議会、祭礼団体の利用も多く、地縁はマドカホールより強い。</li> <li>● マドカホールの500席は必要。他に同規模、同機能のある施設はなく、公民館にもない。</li> </ul>	

	郷土文化課	こども園推進課	水とみどり課	文化国際課	企画課
担当されている施設の現在の稼働率や課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 多目的ホールが1つしかないので、展示スペースと講演会や会議などができる部屋が別々にほしい。</li> <li>● 開館以降 30 年を経て標本、資料類は大きく増加したが、いったん受け入れたら廃棄しないのが原則であり、収蔵スペースが手狭になってきている。収蔵効率を高めることでも少し受入れは可能だが、展示スペースについては、面積を精査することは可能。</li> <li>● 来館者数は2万人前後/年。幼稚園、保育所、小学生、家族連れ等のこども利用が大半。自然大学や高齢者大学のようなシニア層の利用も一定程度ある。市外の利用もある(高石、貝塚、堺、熊取などの泉州地方)。</li> <li>● 現在地は、大型バスが前面道路に入れないなど、アクセスや駐車場に問題があり、決して良い場所とは言えない。</li> <li>● 現在地は、災害リスクがある。3階であれば標本は守られるが、1階展示もある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 浜幼稚園と浜保育所は築年数が耐用年数の65年を超過しており、老朽化が激しいため、早急な対応が求められる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 公園でのイベントが少ない。社会実験などを実施してほしい。</li> <li>● 総合体育館も老朽化しており、多額の費用を投じてリニューアルする必要がある。大きい割に使い勝手が悪く、リニューアルしたとしても、そのままでいいのかどうか検討が必要。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● マドカホールの空調が老朽化に加え、容量不足となっており、ホールや吹抜けエリアなどが冷えない。昨今の猛暑の影響も大きい。また、館内配管も錆により、老朽化が著しい。</li> <li>● 利用者が減少傾向にある。</li> <li>● 南海浪切ホール4階の各諸室は、利用率もあり、多様な利用がなされている。そもそも、市内に同様の機能がないことから、浪切ホールの建設時に機能確保したもの。</li> </ul>	
その他全般的な意見・課題など	<ul style="list-style-type: none"> <li>●</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 幼保再編プロジェクトチームを立ち上げ、今後の後期計画の内容に関する調査・分析を行っており、岸城幼稚園地での再編手法も検討しているが、城内保育所を含めた再編には図書館(本館)敷地の活用が必須であるという分析である。</li> <li>● 図書館(本館)との複合化や合築を想定すると、メリットとしては児童が本に触れる機会が増えること等が考えられるが、認定こども園への侵入対策、動線の隔離、図書館利用者の妨げとならないような防音対策等、課題は多いと考えられる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 内需利用がメインと考えられるため、鉄道駅への近接性はなくても良いのではないかと。</li> <li>● 市役所庁舎跡地(仮)は敷地が狭いのではないかと。周辺道路も一方通行が多く、動線に難ありと思う。</li> <li>● カンカンの居抜きは財源負担が少ないが、立地が市の中心ではないのが課題。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● マドカホールと図書館はそれぞれ直営で運営しているため、複合化の場合、課題の整理が必要。</li> </ul>	

## 2 事業手法及び活用可能な財源の検討

### (1)事業手法の検討

前述のとおり、官民連携によって、様々な事業効果が期待できます。そのため、新図書館（本館）の整備、運営にあたっては、官民連携手法の活用を検討します。

以下に、官民連携手法の概要を整理します。

#### ① BT方式（Build-Transfer方式）

施設の建設を民間企業が行い、完成後に施設を公共部門に譲渡する方式。民間企業は建設に必要な資金調達と建設を行います。その後の運営や維持管理は行いません。運営は契約に含まれないため、現在の運営方式（直営）に合致します。

#### <図書館の官民連携（整備及び運営）の事例>

##### ◎豊田中央図書館（愛知県）

豊田中央図書館は、民間企業が施設を建設し、その後、自治体に譲渡される形式で整備されました。これにより、建設に関するコスト負担を民間企業が担い、完成後は市が運営を行います。

##### ◎札幌市豊平図書館（北海道）

札幌市では、BT方式に基づいて新しい図書館の建設を民間企業に依頼し、完成後に市に譲渡する形で設計から建設が行われました。

##### ◎宮城県名取市図書館（宮城県）

名取市の図書館施設では、BT方式を用いて民間企業が建設を担当し、完成後に市へ施設が引き渡されました。これにより、初期の建設コスト負担を軽減しました。



## ② BTO 方式 (Build-Transfer-Operate 方式)

施設を民間企業が建設し、完成後に公共部門に譲渡した後、民間企業が一定期間運営を行う方式。民間企業は運営による収益を得ることができます。運営も契約に含まれるため、現在の運営方式を変更する必要があります。

### <図書館の官民連携(整備及び運営)の事例>

#### ◎名古屋市東図書館 (愛知県)

名古屋市東図書館では、民間企業が建設し、その後、一定期間にわたって運営を行う BTO 方式が採用されました。運営終了後に施設は市に譲渡され、運営費用は民間企業の収益によって回収されます。

#### ◎さいたま市中央図書館 (埼玉県)

さいたま市の中央図書館において、BTO 方式が採用され、民間企業が建設と運営を担当しています。一定期間後、運営権が市に譲渡される形式です。

#### ◎神戸市西図書館 (兵庫県)

神戸市西図書館も BTO 方式を採用した事例です。民間企業が建設した後、一定期間運営を行い、運営終了後に施設が自治体に返還されます。

### ③ BOT 方式 (Build-Operate-Transfer 方式)

施設の建設から運営までを民間企業が行い、運営後に施設を公共部門に譲渡する方式。民間企業は一定期間、運営し、その収益で投資回収を行います。事業期間内の施設を民間事業者が所有するため、収益性の高い施設を併設する必要があります。運営も契約に含まれるため、現在の運営方式を変更する必要があります。

#### <図書館の官民連携(整備及び運営)の事例>

##### ◎東京オペラシティビル内の図書館(東京都)

東京オペラシティビル内の図書館では、民間企業が建設、運営を行い、運営後に施設を公共部門に譲渡する BOT 方式が採用されました。

##### ◎北九州市立図書館(福岡県)

北九州市立図書館の建設および運営は BOT 方式で進められ、民間企業が設計、建設、運営を行い、その後、市に施設を返還する形です。

##### ◎松山市立図書館(愛媛県)

松山市の図書館では BOT 方式が活用され、民間企業が運営に関与し、運営終了後に施設は市に戻される形です。図書館の利用者サービス向上が図られました。

### ④ DBO 方式 (Design-Build-Operate 方式)

行政が資金調達と施設保有を行いつつ、設計、建設、運営を一括して民間企業が行う方式。建設後は一定期間、施設の運営も民間企業が担います。運営を通じて収益を得ることができます。運営も契約に含まれるため、現在の運営方式を変更する必要があります。

#### <図書館の官民連携(整備及び運営)の事例>

##### ◎千葉市美浜区図書館(千葉県)

千葉市の美浜区図書館では、DBO 方式を採用し、民間企業が設計、建設、運営を一括して行いました。これにより、効率的な施設整備と運営が可能となりました。

##### ◎札幌市北区図書館(北海道)

札幌市の北区図書館では、DBO 方式に基づいて民間企業が一括して設計、建設から運営までを担当し、施設の運営費用を民間企業が収益でカバーします。

##### ◎神奈川県川崎市図書館(神奈川県)

川崎市の図書館においても DBO 方式が採用され、設計、建設、運営を一括して民間企業が行う形となり、サービスの質を高めるとともに効率的な運営が実現しました。

## ⑤ Park-PFI方式(Park-Private Finance Initiative方式)

公園やスポーツ施設などの特定の公共施設において、民間企業が運営を行う方式。特定公園施設を民間企業が整備し(整備対価は公共部門より支払い)、運営の管理やサービス提供を民間企業に任せる形になります。都市公園法に基づく制度のため、まなび中央公園で検討可能です。

### <図書館の官民連携(整備及び運営)の事例>

#### ◎福山市図書館(広島県)

福山市の図書館には、中央公園が隣接しており、その公園では Park-PFI 方式を活用した空間再整備が行われています。その際には、隣接する図書館との相乗効果を念頭に置いた検討がされて、様々な事業が行われています。

#### ◎大分市アート・カルチャー施設(大分県)

大分市内のアート・カルチャー施設の中に図書館が併設されており、Park-PFI方式が適用されて、公共施設としての機能を担いつつ、民間企業が運営を行っています。

#### ◎横浜市の「みなとみらい地区の文化施設」(神奈川県)

横浜市の「みなとみらい地区」にある文化施設の一部として、図書館が整備され、Park-PFI方式に基づいて運営が行われています。図書館とともに多機能施設が設置されており、地域の文化発信の拠点として機能しています。

## ⑥ コンセッション方式

施設の建設や運営権を民間企業に一定期間付与する方式。民間企業は施設の運営で得られる収益から投資回収を行い、契約期間終了後に施設を公共部門に返還します。主に交通インフラやエネルギー施設で利用されます。

### <図書館の官民連携(整備及び運営)の事例>

#### ◎横浜みなとみらい図書館(神奈川県)

横浜みなとみらい図書館では、コンセッション方式を導入し、民間企業に運営を委託している事例です。施設の運営権を民間に与え、運営の効率化とサービス向上を図っています。

#### ◎京都府立図書館(京都府)

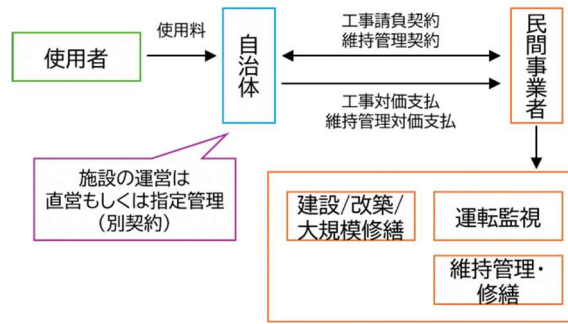
京都府立図書館の一部施設運営にコンセッション方式が取り入れられています。民間企業に運営を委託することで、効率的な運営が実現しています。

#### ◎大阪市立図書館(大阪府)

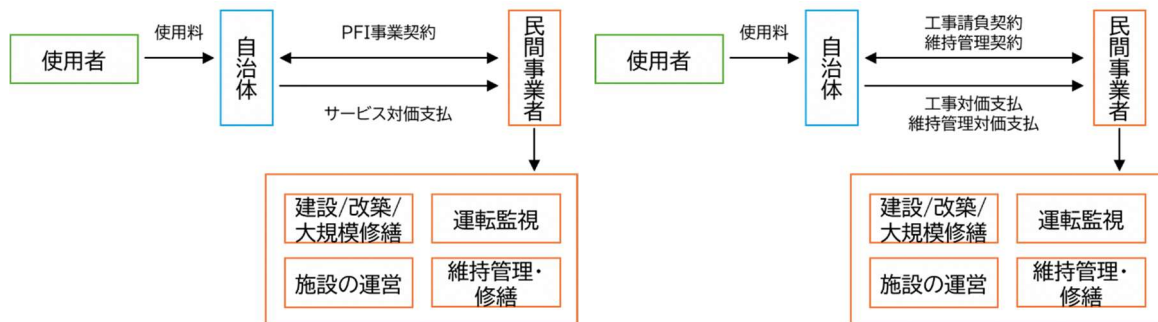
大阪市立図書館の一部では、施設の運営においてコンセッション方式が適用されており、民間企業が一定期間施設を運営し、その後、施設は市に返還されます。

【参考】各事業手法のイメージ図

BT方式

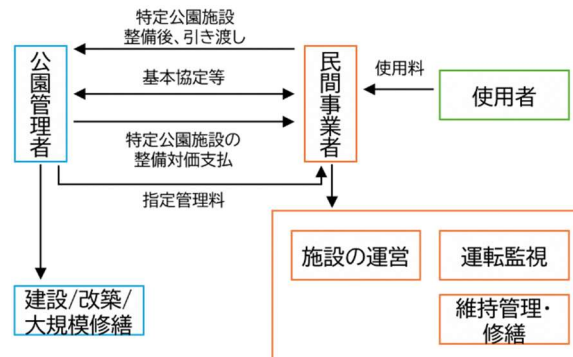


BTO/BOT/DBO方式

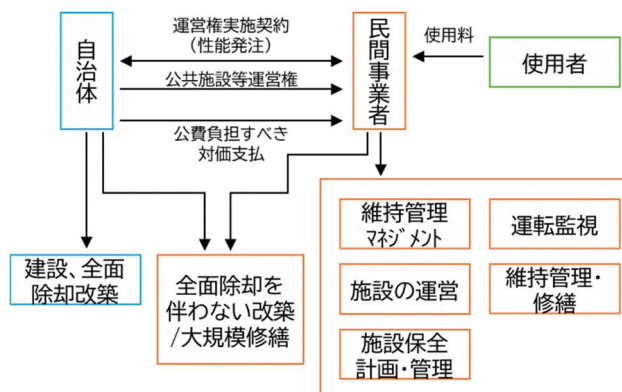


Park-PFI方式

※特定公園施設/指定管理の場合



コンセッション方式



## (2)活用可能な財源の検討

新図書館(本館)の整備にあたっては、財政負担を軽減するため、補助金や交付金、地方債などの活用が望ましいと考えられます。そのため、以下に活用可能な財源及び活用にあたっての諸条件を整理します。

### ■活用可能な財源

名称	国の補助金・交付金			地方債	
	新しい地方経済・生活環境創生交付金(第2世代交付金)	社会資本整備総合交付金(都市再生整備計画事業)	都市構造再編集中支援事業	公共施設等適正管理推進事業債	緊急防災・減災事業債
概要	地方公共団体の自主性と創意工夫に基づいた、地方創生に資する地域の独自の取組を支援。ソフト+ハードや分野間連携の事業を一体的に支援。	都市再生のための事業を支援する交付金で、都市部の社会資本整備や、地域活性化を目的にした施設整備を支援。	立地適正化計画に基づき、市町村や民間事業者等が行う都市機能や居住環境の向上に資する公共公益施設の整備を支援。	公共施設の適正管理を推進するための事業債。	災害対策の拠点となる公共施設の整備を支援。
対象事業	ソフト事業、拠点整備事業、インフラ事業。	都市の再生・活性化を目的とした施設の整備。例えば公共施設、教育・文化施設など	公共公益施設、高次都市施設の整備。	集約化・複合化事業	災害時の拠点となる公共施設の整備。
充当率・交付税措置	(※拠点整備事業) 補助率 1/2。上限額は市区町村 10 億円。	補助率 40%。	補助率 1/2(都市機能誘導区域内)、45%(居住誘導区域内等)。	事業費充当率 90%、交付税措置 50%。	事業費充当率 100%、交付税措置 70%。
条件	地方公共団体の自主性と創意工夫に基づく、地域の多様な主体の参画を通じた地方創生に資する地域の独自の取組が対象。	都市再生整備計画に基づく事業で、地域の振興や活性化に資する内容が対象。	立地適正化計画に基づく事業で、都市機能誘導区域内や居住誘導区域内等での整備が対象。	再編前と比較して延床面積が削減される集約化・複合化事業が対象。	災害時の拠点となる公共施設の整備が対象。

＜各財源を活用した図書館整備の事例＞

◎デジタル田園都市国家構想交付金地方創生拠点整備タイプ)

図書館 DX による読書活動推進事業 (熊本県天草市)

社会情勢等の変化に伴う市民ニーズの多様化、障がいの有無に関わらず誰もが読書を楽しめる読書環境の整備を促進のため電子図書館を導入し、デジタル技術を活用した図書館 DX を推進し図書館利用の拡大を図ることで、いつまでも住み続けたいと思える天草市を実現します。

※これまでの地方創生の取組を見直し、新たな施策として「地方創生 2.0」を打ち出しました。その実現に向けた具体的な支援策として、従来の「デジタル田園都市国家構想交付金」を発展させた「新しい地方経済・生活環境創生交付金(第2世代交付金)」が創設されました。

◎社会資本整備総合交付金(都市再生整備計画事業)

豊橋市まちなか図書館 (愛知県豊橋市)

民間事業者等の活力を活用した再開発事業と一体的に商業・業務施設や図書館等の公共公益施設、多目的広場を整備することで、賑わいの創出や商業・サービス業の活性化を図り、まちなか居住の促進とコンパクトシティの実現を図っています。

◎都市構造再編集集中支援事業

江坂公園・江坂図書館 (大阪府吹田市)

図書館が立地する江坂公園の魅力増進向上及び、図書館に隣接する市の施設跡の利活用を図るため、図書館の増改築をセットとし、Park-PFI 制度を導入してリニューアルを実施しました。公園及び図書館の管理運営には指定管理者制度を活用している一方、司書業務は市の専任職員が担当し、窓口業務は指定管理者が担当するなど、業務形態に適した役割分担による運営を行っています。

◎公共施設等適正管理推進事業債

プラッツ習志野 (千葉県習志野市)

従来の 8 施設(7 建物)にまたがっていた生涯学習や市民活動のための機能を維持しつつ、敷地内の 3 建物に統廃合しているのが大きな特徴で、新築と既存施設のリノベーションを組み合わせた PFI 事業により整備されています。

整備費における財源の大半は「公共施設等適正管理推進事業債」という地方債の一種で確保されており、老朽化対策に関する計画策定や集約化による延床面積減少を条件に、起債充当率 9 割、元利償還金の最大 5 割に対し地方交付税を手当て、という大きな財政的メリットを得られています。

### 3 立地可能場所の評価

昨年度の「新図書館(本館)整備に向けた令和5年度検討報告書」で整理された“立地可能場所”の概要は以下のとおりです。

#### ■立地候補地の概要

候補地	候補地の特徴を活かすポイント	課題等	関係課
現在地(+岸城幼稚園地)  複合化類型 【認定こども園／教育センター】	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 隣接する岸城幼稚園の複合化(認定こども園化)の検討が庁内で進められており、認定こども園との複合施設となった場合、乳幼児をターゲットとした読み聞かせ専用の「おはなし広場」などを設け、乳幼児から本に親しむ環境を作ることで、読み聞かせが子どもの成長にどのように影響するのか等、調査分析が可能となる。</li> <li>✓ 子ども読書活動推進事業の拠点施設として、家庭、学校、地域と連携し、学力向上に向けたソフト事業を充実させる。</li> <li>✓ 歴史・文化ゾーンの立地を活かし、地域資料、行政資料の保管・展示・閲覧・アーカイブ機能を充実させ、周辺の資源・機能との連携を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 利用者の属性に偏りがあり、多世代の個人利用や多様な利用形態をきっかけとした交流が生まれない可能性がある。</li> <li>・ 認定こども園の早期開園の観点から、図書館の動向(移転 or 現地複合化)をできるだけ早く決定する必要がある。</li> </ul>	こども園推進課
南海浪切ホール  複合化類型 【文化施設／学術機関】	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 既存の文化施設や大学サテライトとの連携により、市民が自ら学び、活躍できる知的活動拠点として、相乗効果を生み出す交流拠点施設をめざす。</li> <li>✓ 隣接する商業施設と連携して、「学ぶ」「遊ぶ」「交流する」場を創出することで、子育て世代の定住促進を図る。</li> <li>✓ 特定の目的を持たない人流を図書館に呼び込む可能性がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 車以外の公共交通によるアクセスが高いとは言えない。</li> <li>・ 文化施設のあり方に関する検討については、令和7年度から基礎資料づくりに着手する予定。新図書館の検討スケジュールとの調整が必要。</li> </ul>	文化国際課

候補地	候補地の特徴を活かすポイント	課題等	関係課
まなび中央公園  複合化類型 【文化施設／公民館／スポーツ施設／博物館】	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 文化施設やスポーツ施設、公園施設との連携を行うとともに、公民館機能を取り入れることで、文化・スポーツ・生涯学習の一大拠点の形成をめざす。</li> <li>✓ また、個々の施設(文化施設、スポーツ施設、公園施設、エリア内の施設)を訪れた多様な人々を引き込み、新たな情報にアクセスできる図書館づくりを行う。</li> <li>✓ 特定の目的を持たない人流を図書館に呼び込む可能性がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 都市中核地域の端に位置しており、都市中核地域の住民の一部にとって利用しにくい課題がある。</li> <li>・ 文化施設のあり方に関する検討については、令和7年度の整理が予定されており、新図書館の検討スケジュールとの調整が必要。</li> </ul>	水とみどり課 文化国際課 郷土文化課 生涯学習課
市役所本庁舎跡地  複合化類型 【公民館／その他施設】	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 岸和田駅から(約 700m)、堺阪堺線沿いにあり、大きな人流に接するエリアではないと考えられる。</li> <li>✓ 岸和田城、五風荘などに近接し、歴史文化が薫るエリア。</li> <li>✓ 現在、まだ市役所庁舎が利用されているため、市役所本庁舎建替え後から使用可能。</li> <li>✓ 周辺に公共施設が点在している(中央地区公民館)。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 本庁舎の現地建替え検討にあたり、活断層があることの指摘があった。</li> </ul>	企画課



前項の「1 立地可能場所の検討」、「2 事業手法及び活用可能な財源への検討」を踏まえた、各立地可能場所の評価を以下にまとめます。

## ① 現在地

### ■アクセシビリティ

南海岸和田駅から約 450m、岸和田港塔原線近くであり、交通利便性は高く、アクセスも容易です。ただし、車を利用したアクセスについては、駐車スペースが狭く、現状の図書館単独での需要も満たしていないため、複合化した際の交通環境への影響が懸念されます。

### ■利便性/複合化による相乗効果

岸城幼稚園等と隣接しており、複合化した際の相乗効果が考えられます。しかしながら、敷地面積が他の立地可能場所と比較して小さいため、敷地の使い勝手はあまり良くないと考えられます。

立地可能場所からの 1km 圏域人口は約 26,000 人となっていますが、他の立地可能場所と比較してエリアの滞在人口(現施設利用者)は少なくなっています。

### ■周辺・立地環境

周辺での騒音や振動の発生する施設等はありません。現施設は避難所指定されておらず、風水害や土砂災害リスクの指定もありませんが、地震ハザードマップでは、最大震度6強の予測がされています。

### ■財政負担

現在地での建替えとなった場合は、解体・新築の工事費が必要となり、他の候補地と異なり、追加的な経費として、図書館(本館)の一時移転や機能継続のための費用も必要となります。

### ■全市域における中心性/コミュニティ単位における中心性

人口重心から立地可能場所までの距離は約 2.1km となっています。コミュニティ単位(都市中核地域)の中心からの距離も概ね偏りがない状況となっています。

### ■複合化に向けたスケジュール/関連施設に関する市の計画

「岸和田市立幼稚園及び保育所再編個別計画」があり、現計画では、岸城幼稚園を含めた4施設を統廃合し、令和 12 年までに認定こども園化にする予定となっています。

### ■メリット/デメリットまとめ

メリット	<ul style="list-style-type: none"><li>・岸和田駅から近く、公共交通機関のアクセスが比較的良好。</li><li>・周辺に子育て支援施設や教育施設、文化施設などが多く、親和性が高い。</li><li>・地元住民や既存の利用者の利便性が高い。</li></ul>
デメリット	<ul style="list-style-type: none"><li>・敷地が狭く、土地の活用方法が限定的。図書館の面積が狭くなる。</li><li>・周辺の交通環境が一方通行など、複合化した際のアクセス難や交通渋滞が懸念される。</li></ul>

## ② 南海浪切ホール

### ■アクセシビリティ

岸和田駅から約1kmの距離があり、公共交通機関はローズバスのみであるため、公共交通機関を利用したアクセシビリティはあまり高いとは言えません。湾岸部に位置し、府道29号大阪臨海線沿いの立地であり、かつ、駐車スペースも広いことから、車によるアクセスは容易です。

### ■利便性/複合化による相乗効果

岸和田カンカンバイサイドモール等と隣接しており、南海浪切ホールと複合化した際、隣接施設との相乗効果や駅から図書館までのアクセス路(商店街)の活性化も考えられます。

なお、南海浪切ホールは築年数が22年と比較的新しいため、集約建て替えではなく、改修による複合化が現実的と考えられます。

立地可能場所からの1km圏域人口は約14,000人となっていますが、他の立地可能場所と比較してエリアの滞在人口(現施設利用者)は多くなっています。

### ■周辺・立地環境

周辺での騒音や振動の発生する施設等はありません。南海浪切ホールは指定避難所及び津波避難ビルに指定されており、建物の敷地周辺は風水害や土砂災害リスクの指定がされています。地震ハザードマップでは、最大震度6強の予測がされています。

### ■財政負担

南海浪切ホール所在地での建替えとなった場合は、広大な床面積を保有するため、非常に高額な工事費用となることが予測されます。しかしながら、前述のとおり改修となった場合は、建替えする立地可能場所と比較すると安価であると想定します。

### ■全市域における中心性/コミュニティ単位における中心性

人口重心から立地可能場所までの距離は約2.6kmとなっています。コミュニティ単位(都市中核地域)の中心からの距離はやや北側に偏りのある状況となっています。

### ■複合化に向けたスケジュール/関連施設に関する市の計画

文化施設のあり方を検討するための基礎資料づくりを次年度、行う予定となっています。

### ■メリット/デメリットまとめ

メリット	<ul style="list-style-type: none"><li>・広大な敷地を利用した施設整備が可能。</li><li>・隣接する商業施設との連携が可能で、地域経済への寄与が見込まれる。</li><li>・今後の地域開発に伴い、将来的な利用者数の増加が期待できる。</li></ul>
デメリット	<ul style="list-style-type: none"><li>・公共交通機関へのアクセスがやや不便。</li><li>・南海浪切ホールが築年数22年であり、複合化に適しているとは言い切れない。</li></ul>

### ③ まなび中央公園

#### ■アクセシビリティ

南海春木駅から約600m、国道26号線から約200mと、駅や主要幹線道路から近く、バスの運行もあります。また、駐車スペースも450台と立地可能場所の中で最も多く確保されているため、車でのアクセシビリティも高いと言えます。

ただし、今後、屋内プールや総合体育館の改修などの整備が予定されており、加えて、図書館が複合化した際には、現駐車場の容量超過や周辺の交通環境への影響が懸念されます。

#### ■利便性/複合化による相乗効果

まなび中央公園内には、総合体育館や、スポーツ広場、テニスコートなどがあるほか、近くに文化会館(マドカホール)もあり、今後、屋内プールの整備も計画されています。そのため、複合化した際の相乗効果が考えられます。

立地可能場所からの1km圏域人口は約24,000人となっており、他の立地可能場所と比較してエリアの滞在人口(現施設利用者)も多くなっています。

#### ■周辺・立地環境

周辺での騒音や振動の発生する施設等はありません。総合体育館及び文化会館(マドカホール)は指定避難所に、まなび中央公園は広域避難場所及び指定緊急避難場所に指定されています。風水害や土砂災害リスクの指定はありませんが、地震ハザードマップでは、最大震度6弱の予測がされています。

#### ■財政負担

屋外プール跡地での建替えとなった場合は、相応の床面積を保有するため、高額な工事費用となることが予測されます。しかしながら、文化会館(マドカホール)の改修(との複合化)となった場合は、建替えする立地可能場所と比較すると安価であると想定します。

#### ■全市域における中心性/コミュニティ単位における中心性

人口重心から立地可能場所までの距離は約1.1kmとなっています。コミュニティ単位(都市中核地域)の中心からの距離は東側に偏りのある状況となっています。

#### ■複合化に向けたスケジュール/関連施設に関する市の計画

「まなび中央公園再整備方針」を作成予定となっています。

#### ■メリット/デメリットまとめ

メリット	・既存の公共施設と近接しており、相乗効果・波及効果が期待できる。 ・地元住民や既存の公園等利用者の利便性が高い。 ・今後の地域開発に伴い、将来的な利用者数の増加が期待できる。
デメリット	・北部地域に近接しており、6つのコミュニティ単位の整理が必要である。

#### ④ 市役所本庁舎跡地

##### ■アクセシビリティ

南海岸和田駅から約 700m、堺阪南線沿いにあり、交通利便性は高く、アクセスも容易です。駐車スペースも岸和田城周辺の市役所駐車場及び市営駐車場を含めると立地可能場所の中でも多く確保されています。しかしながら、一方通行や道路幅員、車線数などの観点より、他の立地可能場所と比較すると、周辺の交通環境が優れているとは言えません。

##### ■利便性/複合化による相乗効果

岸和田城等と隣接しており、隣接施設との親和性があり、相乗効果が考えられます(※現時点で複合化は未定)。

立地可能場所からの 1km 圏域人口は約 19,000 人となっていますが、他の立地可能場所と比較してエリアの滞在人口(現施設利用者)は多くなっています。

##### ■周辺・立地環境

周辺での騒音や振動の発生する施設等はありません。今後の避難所指定は未定ですが、風水害や土砂災害リスクの指定もありません。しかしながら、地震ハザードマップでは、最大震度6強の予測がされています。

##### ■財政負担

現在地での建替えとなった場合は、複合化する機能等にも寄りますが、改修する場合と比べて、高額な工事費用となることが予想されます。

##### ■全市域における中心性/コミュニティ単位における中心性

人口重心から立地可能場所までの距離は約 2.4km となっています。コミュニティ単位(都市中核地域)の中心からの距離も概ね偏りがない状況となっています。

##### ■複合化に向けたスケジュール/関連施設に関する市の計画

現時点は具体的なスケジュール等は決まっていません。

##### ■メリット/デメリットまとめ

メリット	<ul style="list-style-type: none"><li>・岸和田駅から近く、公共交通機関のアクセスが良好。</li><li>・周辺に子育て支援施設や教育施設、文化施設などが多く、親和性が高い。</li><li>・地元住民や既存の利用者の利便性が高い。</li></ul>
デメリット	<ul style="list-style-type: none"><li>・活断層がある。今後のスケジュールが不透明。</li><li>・周辺の土地利用制限があるため、施設の規模拡大に限界がある。</li></ul>

■立地可能場所の評価まとめ

評価項目/立地可能場所		現在地	南海浪切ホール	まなび中央公園	市役所本庁舎跡地
定量評価	アクセス性	・最寄りの鉄道駅からの距離○ ・最寄りのバス停からの距離○ ・可能場所に接する主要道路△ ・可能場所に接する前面道路幅員△ ・可能場所での駐車可能台数△ ・可能場所周辺道路の混雑状況等○	・最寄りの鉄道駅からの距離△ ・最寄りのバス停からの距離○ ・可能場所に接する主要道路○ ・可能場所に接する前面道路幅員○ ・可能場所での駐車可能台数○ ・可能場所周辺道路の混雑状況等○	・最寄りの鉄道駅からの距離○ ・最寄りのバス停からの距離○ ・可能場所に接する主要道路○ ・可能場所に接する前面道路幅員○ ・可能場所での駐車可能台数○ ・可能場所周辺道路の混雑状況等○	・最寄りの鉄道駅からの距離○ ・最寄りのバス停からの距離○ ・可能場所に接する主要道路△ ・可能場所に接する前面道路幅員△ ・可能場所での駐車可能台数△ ・可能場所周辺道路の混雑状況等○
	利便性	・公共施設・民間施設との近接性○ ・圏域人口(徒歩圏+α)○ ・滞在人口(徒歩圏+α)△ ・複合候補施設の年間利用者数△	・公共施設・民間施設との近接性○ ・圏域人口(徒歩圏+α)△ ・滞在人口(徒歩圏+α)○ ・複合候補施設の年間利用者数○	・公共施設・民間施設との近接性○ ・圏域人口(徒歩圏+α)○ ・滞在人口(徒歩圏+α)○ ・複合候補施設の年間利用者数○	・公共施設・民間施設との近接性○ ・圏域人口(徒歩圏+α)○ ・滞在人口(徒歩圏+α)△ ・複合候補施設の年間利用者数△
	周辺・立地環境	・騒音や振動の無い環境○ ・可能場所の避難所指定なし ・災害環境:風水害○ ・災害環境:土砂○ ・災害環境:地震△	・騒音や振動の無い環境△ ・可能場所の避難所指定あり ・災害環境:風水害△ ・災害環境:土砂○ ・災害環境:地震△	・騒音や振動の無い環境○ ・可能場所の避難所指定あり ・災害環境:風水害○ ・災害環境:土砂○ ・災害環境:地震△	・騒音や振動の無い環境○ ・可能場所の避難所指定なし ・災害環境:風水害○ ・災害環境:土砂○ ・災害環境:地震△
	財政負担	・市が負担する費用:高	・市が負担する費用:低～高※改修の場合(整備内容や事業手法により費用が変動)	・市が負担する費用:高※新築の場合 ・市が負担する費用:低※改修の場合	・市が負担する費用:高
	中心性	人口重心から可能場所までの距離△	人口重心から可能場所までの距離△	人口重心から可能場所までの距離○	人口重心から可能場所までの距離△
	スケジュール	・複合化候補施設の再編検討スケジュール認定ことも園	・複合化候補施設の再編検討スケジュール南海浪切ホール	・複合化候補施設の再編検討スケジュールマドカホール/まなび中央公園	・複合化候補施設の再編検討スケジュール未定
	市の施策・計画等との整合性	・関連計画あり	・関連計画なし※令和7年3月時点	・関連計画あり	・関連計画なし※R7.3時点
	コミュニティ単位	・都市中核地域の中心からの距離○	・都市中核地域の中心からの距離△	・都市中核地域の中心からの距離△	・都市中核地域の中心からの距離○
	周辺地域への影響等	・周辺地域への好影響や経済波及効果○ ・複合・隣接する民間施設等との相乗効果○	・周辺地域への好影響や経済波及効果○ ・複合・隣接する民間施設等との相乗効果○	・周辺地域への好影響や経済波及効果○ ・複合・隣接する民間施設等との相乗効果○	・周辺地域への好影響や経済波及効果— ・複合・隣接する民間施設等との相乗効果—
	定性評価	民間事業者ヒアリング	現在地での建替えにはスペースに制約があり、複合化には敷地面積が狭いため、難しい。蔵書の一時保管場所や仮施設の必要性があり、予算確保や土地の調整が課題。	立地的にはアクセスが良好で、駐車場の広さや幹線道路沿いの位置が好評価。複合化の可能性はあるが、施設改修が必要で、構造上の問題や大規模修繕が課題。	面積が広く、複数施設の集約が可能で、ファミリー層に向けた施設としての可能性がある。しかし、駅から距離があり、アクセスの悪さや公共交通機関の利用が難しい点が懸念される。
庁内関係課ヒアリング		認定子ども園の統合に向けて、岸城幼稚園地と隣接する図書館敷地の活用が最適とされているが、建設や駐車場の課題がある。図書館との複合化にはメリットもあるが、動線隔離や防音などの課題もある。	南海浪切ホールは築年数22年で状態は良好だが、進入路や駐車場の問題、周辺の土地利用制限がある。	屋外プール跡地は、子ども向け施設整備を検討。民間事業者の提案を促進し、Park-PFIやPFI方式も視野に入れている。複合化には課題もあるが、マドカホールと図書館は直営施設のため、手続きが比較的簡単かもしれない。	今後の検討を進める予定であるが、具体的な活用内容やスケジュールは未定。市役所庁舎跡地は敷地が狭く、動線に課題がある。
その他	事業手法イメージ	・従来型(設計・施行別発注) ・BT/・BTO/・BOT/・DBO/ ・コンセッション	・従来型(設計・施行別発注) ・BT/・BTO/・BOT/・DBO/ ・コンセッション	・従来型(設計・施行別発注) ・BT/・BTO/・BOT/・DBO/ ・Park-PFI/・コンセッション	・従来型(設計・施行別発注) ・BT/・BTO/・BOT/・DBO/ ・コンセッション
	活用可能な財源	・新しい地方経済・生活環境創生交付金(第2世代交付金) ・社会資本整備総合交付金(都市再生整備計画事業)/ ・都市構造再編集中支援事業/ ・公共施設等適正管理推進事業債/ ・緊急防災・減災事業債	・新しい地方経済・生活環境創生交付金(第2世代交付金) ・社会資本整備総合交付金(都市再生整備計画事業)/ ・都市構造再編集中支援事業/ ・緊急防災・減災事業債	・新しい地方経済・生活環境創生交付金(第2世代交付金) ・社会資本整備総合交付金(都市再生整備計画事業)/ ・都市構造再編集中支援事業/ ・公共施設等適正管理推進事業債/ ・緊急防災・減災事業債	・新しい地方経済・生活環境創生交付金(第2世代交付金) ・社会資本整備総合交付金(都市再生整備計画事業)/ ・都市構造再編集中支援事業/ ・公共施設等適正管理推進事業債/ ・緊急防災・減災事業債

### Ⅲ 市民意見の把握

過年度の報告書や関係するアンケート調査結果等より、関係者意見の整理を行います。

#### 1 利用者アンケート調査

「岸和田図書館のあり方資料編(令和5年2月)」の中では、「利用者アンケート」として、以下の内容がまとめられています。

##### ① 調査目的

岸和田市立図書館の利用者を対象に、本市図書館が実施しているサービスに対する利用者の意識を調査・分析することで、これまでの施策を振り返るとともに、今後のサービス向上のための検討資料とします。

##### ② 調査方法

記入式のアンケート調査を実施しました。

##### ③ 調査実施概要

期間:令和2年10月6日から11月3日まで

対象:図書館本館及び各分館の来館者

件数:1,394件(内訳は以下のとおり)

本館	旭	山直	春木	八木	桜台	計
208	240	227	474	184	61	1,394

##### ④ 調査結果

###### 問. 図書館に対する満足度

図書館のサービスに対する利用者の評価は、主に蔵書や図書の探しやすさに対する不満が高いことが示されています。特に「蔵書の量・内容」や「図書の探しやすさ」の充実が強く求められ、改善が必要であることがわかります。また、開館時間や貸出・返却の利便性、職員対応などの基盤的サービスは比較的満足度が高く、現状の維持または少しの改善が望まれています。一方で、視聴覚資料や講座、イベントなどの付加的なサービスは利用者からの評価が低く、これらのサービスの充実が求められるとともに、改善の余地が大きいことがわかりました。全体的に、図書館の基盤的機能の向上とともに、特定のサービス内容の強化が必要であることが示されています。

###### 問. これからの図書館に希望するもの

全体的な傾向として、図書館に求められるサービスは、利用者の年齢やニーズに応じて異なりますが、特に「滞在型図書館」としての機能が多くの世代で求められていることがわかります。若年層はデジタル技術や作業環境を重視し、年齢の高い層は地域の歴史資料や伝統的なサービスを求めています。

## 2 市民意識調査

過年度の公共施設に関する市民アンケート調査では、『岸和田市の公共施設で、あなたが一番好きな(興味のある)施設はどれですか。』という問いに対して、「図書館」と回答した割合が多くなっており、本市における図書館は市民にとって大切な公共施設であるとなっています。

### ○岸和田市の公共施設で一番好きな(興味のある)施設

「岸和田市の公共施設で、あなたが一番好きな(興味のある)施設はどれですか。」(自由回答)

上位 10 位の回答 (n = 587)

施設	回答数
図書館	63
浪切ホール	29
公民館	26
中央公園	19
山直市民センター	15
桜台市民センター	14
岸和田城	11
だんじり会館	9
とんぼ池公園	9
マドカホール	9
市民センター	9

	回答数
ない	90
わからない	6

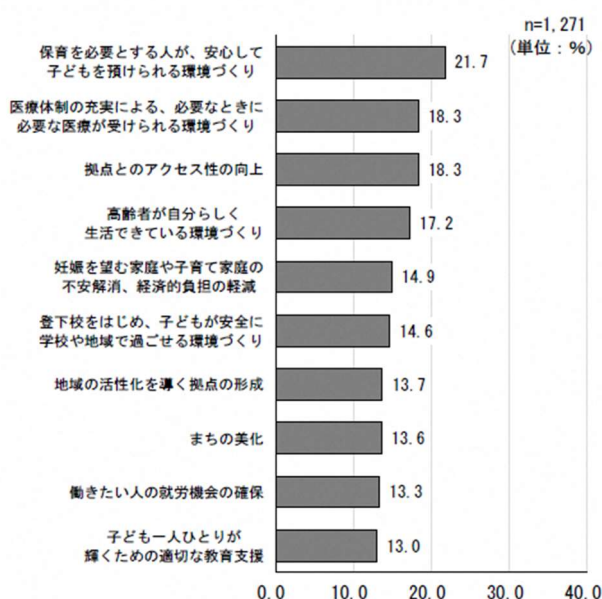
#### ◇意見抜粋

- ✓ 高校生の頃、受験勉強を自由にできる環境を見つけ、愛用していた。
- ✓ 本が好きで、読みたい本もたくさんある。
- ✓ 自習室が使いやすい。無料で使用できる。書物がたくさんあり、資料が探しやすい。
- ✓ よく利用している。貸出し以外に特設コーナーを設けていたり、イベントがたくさんあって楽しめる。
- ✓ 学業で資料を借りたり、自習室で勉強する必要があるため、利用している。

令和6年度市民意識調査では、「今の岸和田のまちづくりにとって特に重要だと思うもの」について回答を聞いたところ、最も重要度の高い項目は、「保育を必要とする人が、安心して子どもを預けられる環境づくり」(21.7%)であり、次いで「医療体制の充実による、必要なときに必要な医療が受けられる環境づくり」(18.3%)、「拠点とのアクセス性の向上」(18.3%)、となっています。

その他、「登下校をはじめ、子どもが安全に学校や地域で過ごせる環境づくり」、「地域の活性化を導く拠点の形成」、「子ども一人ひとりが輝くための適切な教育支援」などが上位10項目となっています。(全 58 項目)

#### ■「重要度」の全体の結果(上位 10 施策)(高い順)



### 3 館外イベントでの市民の声

岸和田ブックフェスタ等で「図書館によく行く方の声」、「図書館を利用しない方の声」、「こんな図書館になってほしい」について、調査しました。その概要や回答結果を以下に整理します。

#### ① 調査目的

図書館から飛び出して、普段図書館を利用しない方にも、どのような図書館であれば行きたくなるか、こんな図書館になってほしい等の意見を伺うことで、図書館利用者以外も含めた意向を調査・分析することで、これまでの施策を振り返るとともに、今後のサービス向上のための検討資料とします。

#### ② 調査方法

図書館の外でのイベント開催時に、岸和田や図書館についてヒアリング調査を実施しました。

#### ③ 調査実施概要

調査期間:令和6年4月13日(A) 47名

令和6年5月12日(B) 12名

令和6年10月20日から11月10日まで(C) 45名

調査対象:下記のイベント来訪者

A:ライフシェアマルシェ@南海浪切ホール(祭りの広場)

B:岸和田ブックフェスタ 2024・春「駄菓子とブックカフェ」(岸和田カンカンバイサイドモール WEST2 階)

C:岸和田ブックフェスタ 2024 秋

#### ④ 調査結果

##### ◇図書館によく行く方の声

図書館の本の種類や貸出・返却の便利さは評価されていますが、特に子ども向けの椅子や遊べるスペースが不足しているとの意見があります。お話し会などのイベントが増えると良いという意見もあり、子ども向けの施設充実が求められています。一方で静かな環境も求められています。

本の位置がわかりづらいという問題もあり、館内の案内をもっと直感的にわかりやすくしてほしいとの声があります。さらに、カフェや休憩スペースを設置し、地域とのつながりを深めるイベントや SNS 発信を希望する声もあります。

バリアフリー対応やエレベーター設置、トイレの清潔さなど、誰もが快適に利用できる施設作りが求められています。利用者は、開放的で交流の場が充実した図書館を期待しており、幅広い年齢層に対応した施設作りが重要だと考えられます。



### ◇図書館を利用しない方の声

図書館に行くことに対して、静かな環境に抵抗を感じる利用者が多くなっています。多くの親は、子どもが静かにしなければならないことに不安を抱えており、代わりにショッピングセンターやゲームセンター、公園などで過ごすことが多いと述べています。また、絵本が好きな子どもがいる家庭でも、図書館より本を購入するといった意見も見受けられます。子どもが小さい頃は図書館に通っていたが、成長と共に体を動かす方を好むようになり、遊べるスペースがあれば図書館に行こうと考える親もいます。

一部の利用者は、図書館にキッズスペースや軽い BGM を流すことを提案し、静かな環境があってももう少し柔らかい雰囲気にしてほしいと希望しています。さらに、新刊書を増やすことや、人の気配を感じられる場所としての図書館の魅力を高めることが求められています。

### ◇こんな図書館になってほしい

図書館に関する利用者の意見には、子ども向けの施設やスペースの充実を求める声が多くあります。例えば、キッズスペースや子ども用のテーブル・椅子を設置することが提案され、子どもがおしゃべりをしていても気にならない空間が欲しいという声もあります。また、子どもと一緒に遊びながら絵本を読むスペースや、お話し会、リズム体操などのイベントがあるとより魅力的だと感じる親も多いです。

さらに、図書館内にカフェやくつろげるエリアがあれば、より行きやすく、リラックスできるといった意見もあります。

このほか、利用者は図書館を単なる本を借りる場所としてだけでなく、コミュニケーションの場や文化的な活動の拠点としても活用したいと考えており、読書の苦手な人でも楽しめる場所を求めています。例えば、難しい本だけでなく、親しみやすい本を紹介したり、読書サークルを開催したりすることで、地域住民が気軽に集まる場所になることが望まれています。また、新しい図書館に求められる特徴として、年中無休や夜間営業の提案もあります。

さらに、図書館を訪れるきっかけとして、地域に馴染みやすい場所に図書館があったり、スーパーや駅近くに設置されたりすることが便利だという意見もあり、アクセスの良さが重要視されています。

市民意見のまとめとして、図書館は単なる書籍の貸し出しにとどまらず、地域社会の重要な交流の場としての役割が求められていることが明らかになりました。利用者からは、蔵書の充実や視聴覚資料、子ども向け施設の充実など、さまざまなニーズが挙げられています。また、図書館の利用環境の改善、アクセスの向上、地域との連携が重要な要素として挙げられました。

これらの声を踏まえ、今後の図書館は、すべての年齢層が快適に過ごせる「滞在型」の施設として進化し、地域住民の文化的な活動や交流の場としてさらに充実させていくことが期待されます。図書館が地域社会にとって不可欠な存在であり続けるために、今後も利用者の意見を反映させた改革と、より多様なサービスの提供が求められます。

## IV 今後に向けて

---

### 1 検討スケジュール

「Ⅱ 立地可能場所の検討」で示した立地可能場所と関係する庁内のスケジュールを以下に示します。

#### ① 文化国際課【南海浪切ホール・マドカホール等】

岸和田市新行財政改革プランにおいて、文化施設のあり方が示されているため、あり方を検討するための基礎資料づくりに着手する予定としている。

#### ② 水とみどり課【まなび中央公園】

- ・屋内プールを令和10年度中の供用開始を目指し、その後、現屋外プールを用途廃止。
- ・次回の公園の指定管理が令和8年度から令和12年度まで(5カ年)。
- ・屋内プールは事業者公募に向けた事前協議、基本計画の策定作業中。DBO方式を令和8年度中に実施していきたい。

#### ③ こども園推進課【現在地】

令和7年2月時点で32施設(再編前は34施設)の幼稚園、保育所を再編する計画である(※中期計画までは公表済)。現計画では、岸城幼稚園・浜幼稚園・浜保育所・城内保育所の4つの施設を1つの市立認定こども園に再編する計画。

#### ④ 企画課【市役所本庁舎跡地】

新庁舎が令和13年度完成予定のため、その時、跡地活用にすぐに取り掛かれるよう検討を始めようとしている段階である。

## 2 今後の検討課題

### ① 他事業と一体となった検討

これまでは図書館が中心となって、立地候補地の検討を行っていましたが、複合化にあたっては、施設整備や運営について、図書館単独だけでの検討に限界があると考えられます。そのため、次年度以降には、全庁的に他事業と一体となった具体的な検討を進めていくことが望ましいと考えられます。

### ② ビジョン・コンセプトの検証と更新

図書館のビジョン・コンセプトを明確にした上で、地域活性化にどのように貢献できるか、具体的なプランを策定する必要があります。周辺施設との連携やイベントの実施などを通じて、地域の経済的な活性化に繋がります。これらを踏まえた上で、より良い施設整備を目指して進めていくことが重要です。

### ③ 共創の図書館づくりに向けた体制

今後の図書館は、すべての年齢層が快適に過ごせる「滞在型」の施設として進化し、地域住民の文化的な活動や交流の場としてさらに充実させていくことが期待されます。そのためには、図書館と地域住民、行政、そして関連機関が一体となり、共に取り組む「共創の図書館づくり」が不可欠です。利用者の多様なニーズに応えるために、地域との連携を強化し、より開かれた参加型の運営体制を築いていくことが重要です。